

## 1 研究の背景と目的

外国語科においては、「情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする」という情報の受信から発信へと発展させていく指導が求められている。自身の指導においても、文字による受動的な内容理解の段階から発展させ、そこから得た情報などを自分の言葉で表現する活動へとつなげることにより、4技能のバランスのとれた授業を展開する必要性を痛感している。また、英語を聞き取ることに苦手意識を持っていたり、英語で話すことに慣れていない生徒が多いことがアンケート調査によってわかり、第二言語習得において、インプット活動とアウトプット活動をいかに効果的につなぐかが重要な課題であることがわかった。

アウトプット・タスクの例として、村野井（2006）は、読んだり聞いたりした内容を要約する方法（summarizing）や、英文をメモを取りながら繰り返し聞く作業の後で元の英文を復元させる方法（dictogloss）などがあると指摘している。本研究では、このインプットからアウトプットへと発展させる活動に着目し、まとまった英文をメモを取りながら聞き取り、それを他者に伝える活動を通して、大切な内容や情報を聞き取ろうとする積極的な態度を養うとともに、聞き取った情報を再発信する能力を育成する指導について考えてみたい。

## 2 研究仮説

リスニング、ノート・テイキング、スピーキングの技能を関連付けた指導を行うことで、聞き取った情報を口頭要約する力を育成することを目指した研究に取り組む。

## 2.1 研究仮説 1

英文を聞く際、他者にその内容を伝えることを目的として、情報を整理しながらメモを取るにより、概要を聞き取る力が向上するであろう。

## 2.2 研究仮説 2

メモに基づいて文章を再構築して伝える練習を積み重ね、聞き取った情報を伝えるためのスピーキング力が向上するであろう。

## 3 研究計画

## ・対象生徒

平成20年度	第1学年2クラス（40名と41名）
平成21年度	第2学年2クラス（23名と32名）

## ・担当科目及び教科書

平成20年度	「英語」(3単位) PROMINENCE English I (東京書籍)
平成21年度	「英語表現」(4単位) Planet Blue Writing Navigator (旺文社)

・指導計画

平成20年6月～12月	先行研究，文献の研究調査
平成21年1月～3月	<p>授業実践1（試行実施）</p> <p>A L Tによる教科書の題材に関連した120語程度の短い話を聞き，その概要を聞き取る能力の向上を図るとともに，聞き取った情報を再生することによって，自分の言葉で概要を表現する力の育成を図る。</p> <p>・A L Tによる話の題材例</p> <p>世界の占い（教科書第6課の内容関連）</p> <p>左利きの有名人（教科書第7課の内容関連）</p> <p>・「概要の聞き取り及び伝達」のテスト</p>
平成21年4月～11月	<p>授業実践2（本実施）及び検証</p> <p>A L Tによる300～500語程度のあるテーマに沿った話（レクチャー）の概要を聞き取り，それを他者に伝える活動を行う。概要を聞き取る力と，聞き取った情報を伝えるためのスピーキング力の向上を図る。</p> <p>・実用英語技能検定のリスニング問題による口頭要約テスト（4回）</p>

#### 4 研究内容及び研究方法

##### 4.1 文献研究

Brown(1987)は，コミュニケーション・アプローチの定義の一つとして，“Accuracy is secondary to conveying a message. ... The ultimate criterion for communicative success is the actual transmission and receiving of intended meaning.”と述べ，実際のコミュニケーションに近い状況の中でメッセージの伝達能力を育成することに重点を置いている。

本研究においては，メッセージに重点を置いたインプット及びアウトプット活動として，まとまった英文を聞いてその内容を自分の言葉で再構築する活動を取り入れる。

##### 4.2 リスニングとスピーキングを関連付けた指導の実践

###### 4.2.1 概要を把握するためのメモの取り方の指導

英文を聞く際，内容に応じて聞き取るべき大切な情報に注意し，論旨の展開を追いながらメモを取るように指導する。

例1 物語文では主に5W1Hの情報を意識する。

例2 説明文ではその主題は何かを意識する。

###### <手順>

###### 初期段階

聞き取るべき項目をあらかじめメモ欄に明示しておき，A L Tが話す際に強調する。メモはあくまで口頭による再構築のためのものなので，カタカナ表記などの日本語でも可とする。

###### 発展段階

メモ欄の聞き取るべき項目数を減らしていく。A L Tは生徒がメモを取る際，話の流れを整

理しやすいように、因果関係・逆接・例示などの接続表現を強調する。

#### 最終段階

メモ欄には聞き取るべき項目数のみ示しておく。

#### 4.2.2 メモを基に文を再構築する指導

メモを基に自分の言葉で文を再構築し、聞き取った内容を伝える。また、聞き取る文章の中に習得目標とする構文などを埋め込むことにより、その構文を効率的に習得できるような配慮を施す。

#### <手順>

##### 初期段階

聞き取るべき項目がわかりやすいように、英文は意図的に First, Second,...等の語句で始める。また再構築の負担を軽減するため、概要を表現する文のパターンを統一する。

##### 発展段階

概要に含まれるべきキーワードを項目ごとに示し、概要を述べる際、そのキーワードを含めて述べるよう指示する。

##### 最終段階

キーワードなどのヒントを明示しない。

#### 4.3 評価「実用英語技能検定のリスニング問題を活用した口頭要約テスト」

本研究における評価は、聞き取った情報の概要をどれだけ伝えられるかという観点で行う。したがって、評価においては情報を伝達する際の発音や文法上の誤りに対する比重を軽くし、聞き取った情報を、自分の言葉で伝えられているかを主な評価項目とする。

概要を聞き取る力及び聞き取った情報を伝える力の伸長度を測るテストとして、比較的短く、題材によって語彙・語句レベルに差が生じない「実用英語技能検定準2級一次試験リスニング第3部」を用いた「口頭要約テスト」を行う。各文章に対して聞き取るべき項目を定め、5段階の評価を行う。

### 5 研究実践

#### 5.1 リスニングとスピーキングを関連付けた授業実践 1

##### ・目的

ア A L Tによる、120語程度の短い話を聞くことによって、リスニング能力を向上させる。

イ 与えられる情報の概要を聞き取る能力を向上させる。

ウ 聞き取った情報を再生することによって、自己のスピーキング能力の課題を発見し、その向上を図る。

エ ペアワークによって、聞き取った情報の内容を確認し、聞き取りの精度を高める。

オ クラス内で別々の情報を聞き取った相手との情報交換を行うことによって、コミュニケーション能力の育成を図る。

##### ・指導手順と留意点

##### ア オーラル・イントロダクション

トピックに関連した写真などを利用したオーラル・イントロダクションを聞き、内容を予測したり、キーワードや背景知識を得たりすることによって、リスニングのレディネスを高める。

## イ グループ別の聞き取り

クラスを A, B の 2 グループに分ける。教科書の題材に関連しながら, 異なる情報を含む文章を 2 種類作成する。各グループは別々の文章の情報を聞き取り, メモを取る。

## ウ リスニング及びメモ

各グループは, A L T による 1 分程度の短い文章を聞いてメモを取る。リスニングは 2 回行う。

1 回目 メモを取らず, 全体像を把握する。

2 回目 聞きながらメモを取る。

## エ 聞き取った情報の刷り合わせ

同じ情報を聞き取ったグループ内でペアを組む。お互いが聞き取れた情報を確認し, 不足などがあれば補い合うことで, その概要を可能な限り復元する。その際, メモを見せ合うのではなく, あくまで口頭によって情報交換する。

## オ 聞き取った情報の交換

別の情報を聞き取ったグループの生徒とペアを組み直し, エで復元した内容を伝え合う。手順ウの際と同様に, 口頭による情報交換を徹底する。

## カ 聞き取った情報の概要の確認

聞き取った項目を一つずつ文にして口頭発表し, A L T が確認する。

・評価

## ア 評価の観点

トピックを捉えているか, 5 W 1 H など聞き取るべき点が述べられているか。

## イ 評価基準

A	生徒の要約文に聞き取るべき情報がすべて含まれている。
B	生徒の要約文に聞き取るべき情報がやや不足している。
C	生徒の要約文に聞き取るべき情報が不足している。

## ウ 評価例

### グループ A が聞いた英文

According to Feng Shui, it is very important to arrange your rooms in your house. Today, let me give you some advice about the location of your toilet, and what you can do if it is in the wrong place.

First, if your toilet is in the east, you should have a white or brown wall paper. If you don't have it, you will lose your money, or you cannot save much money.

( 以下略 )

### グループ B が聞いた英文

According to Feng Shui, it is very important to arrange your rooms in your house. Today, let me give you some advice about the location of your kitchen, and what you can do if it is in the wrong place.

First, if your kitchen is in the east, you should put something red or blue there. If you don't follow it, you will not have many children.

( 以下略 )

## 生徒のメモ

Topic: キッチン	
Advice #1	<p><i>If your キッチン is in the イースト</i></p> <p><i>You (should) put (something) red or yellow</i></p> <p><i>If you don't follow the advice, you will not have (children.)</i></p>

( )内はA L Tの確認後に記入したもの

## エ 考察

既習の内容に関連していること、またトピックを強調し、聞き取るべき点を示したことなどから、各グループとも概要を伝えるために必要なメモは取れている。しかし、最後のアドバイスとなる情報が不足しているため、評価はBとした。

## 5.2 リスニングとスピーキングを関連付けた授業実践2

### ・目的

ア A L Tによる、300～500語程度のあるテーマに沿った話(レクチャー)を聞くことによって、リスニング能力の向上を図る。

イ 与えられる情報の内容を予測し、その概要を聞き取る能力の向上を図る。

ウ 受け取った情報を再生することによって、スピーキング能力の向上を図る。

エ ペアワークで受け取った情報の内容を確認・追加・訂正することによって、聞き取りの精度を高めるとともに、コミュニケーション能力を高める。

オ 聞き取った情報を文章に書き、文法や構文上の誤りを発見することによって正しい英語表現を身に付ける。

### ・指導手順と留意点

#### ア 題材に関するQ & A

レクチャーを聞く前に、題材に関連した写真などを基に質疑応答を行い、内容について予測する。

#### イ リスニング及びメモ

A L Tによるレクチャーを聞いてメモを取る。リスニングは2回行う。

1回目 メモを取らず、全体像を把握する。

2回目 レクチャーを聞きながらメモを取る。図1 Scratch の欄に記入する。

#### ウ A L Tへの確認質問

イのリスニングで不明瞭だった点について、質問をして確認する。

#### エ ペアによる聞き取った情報の刷り合わせ

任意の相手とペアを組む。レクチャーに含まれる3つの上位項目ごとに、Reporter (メモを見ながら聞き取った情報を伝える)、Checker (自分のメモを見ながら、Reporter が伝える情報の内容を確認・追加・訂正し、図1 Feedback の欄に記入する)の役割を交代しながら、お互いの情報を交換・確認・追加・訂正する。

#### オ 聞き取った情報の概要の確認

聞き取った項目を一つずつ文にして口頭発表し、A L Tと確認する。

#### カ 文法的に正確な文の再構築

聞き取った項目を図1 Final Answer の欄に文章にして書き、A L T及びJ T Eが内容及び文

法面の誤りを訂正する。

補足「メモの取り方について」

レクチャーのテーマごとに、聞き取るべき概要のサブ・テーマを3つ、それぞれのサブ・テーマに3～5個の小項目を設けることで、生徒がメモを取ることに慣れるように指導する。

初期段階では、サブ・テーマとその項目をほぼすべて事前に示し、それを意識しながらメモを取ることができるようにする。

「図1」初期段階のメモ用ワークシート

	Scratch(ONLY key words!)	Feedback	Final Answer
1	About Olivia's cousin (サブ・テーマ)		
	Name & age: ↑		
	She lives in: (項目)		
	Her appearance:		
	She is special because: ↓		

発展段階では、提示する項目を徐々に減らし、聞き取るべき項目を自ら探しながらメモを取るようになる。

「図2」発展段階のメモ用ワークシート

	Scratch (ONLY key words!)	Feedback	Final Answer
1	Architecture (サブ・テーマ)		
	• Its structure: • Why was it built?: ↑↓ (項目)		

・評価

ア 評価の観点

A L Tのレクチャーを聞いてメモを取り、そのメモを基に再生した内容に聞き取るべき情報が含まれているか。

イ 評価基準

評点	評価基準
5	生徒の要約文に聞き取るべき情報がすべて含まれており、内容が理解できる。
4	生徒の要約文に聞き取るべき情報がほぼ含まれており、内容が理解できる。
3	生徒の要約文に聞き取るべき情報の一部が不足しているが、内容として理解できる。
2	生徒の要約文に聞き取るべき情報が不足しているため、内容がわかりづらい。
1	生徒の要約文に聞き取るべき情報が不足しており、内容が理解できない。

ウ テスト実施手順

- ・5.2の指導手順ウまでと同様にリスニングを行う。
- ・1分間で、各自のメモを整理する。
- ・1分間で、メモを基に聞き取った情報をテープに録音する。
- ・3つのサブ・テーマごとに、イの評価基準に基づいて評価を行う。

## エ 評価例

### テスト例 “My favourites”

Firstly, I'll talk about my favorite hobby. My favourite hobby is cooking. Indeed, I think I became quite good at it as time went by. I often cook at home, usually for dinner, especially during the weekend because I'm at school on weekdays.

< 以下略 >

#### 生徒 A の要約例と評価

*His hobby is cooking. He often cooking at home.*

主要な情報は含まれているが、下位情報が含まれておらず、要約としては不十分である。

#### 生徒 B の要約例と評価

*Thoma's favorite hobby is cooking. He usually cooking dinner at home... during the weekend*

主要な情報といくつかの下位情報が含まれており、口頭要約としては概ね十分である。

## オ 考察

図 3 に示した合計 2 回のテスト結果には、平均点において若干の伸びが見られるものの、総合的な上昇傾向は現れていない。生徒のメモ及び口頭要約には、因果関係や順接逆接の誤りなど致命的なミスもある。しかし、断片的に伝えられていた情報（単語のみなど）が文として成立するようになった、聞き取れなかった部分を自分の言葉で表現するようになった、単文の羅列であった要約文が、適切な接続表現を使用した文章にまとまってきたなどの変容も見られるようになっている。

「図 3」口頭要約テストの点数分布

点数	5 点以下	6 ～ 9 点	10 ～ 12 点	13 ～ 15 点	平均点
第 1 回目 平成 2 1 年 6 月実施	1 人 ( 2% )	12 人 ( 23% )	28 人 ( 50% )	14 人 ( 25% )	11.6
第 2 回目 平成 2 1 年 9 月実施	0 人 ( 0% )	13 人 ( 26% )	26 人 ( 52% )	11 人 ( 26% )	11.9

## 6 研究評価

### 6.1 検証テスト

本研究では、4.3 に記した実用英語技能検定のリスニング問題を利用した口頭要約テストによって仮説の検証を行う。

#### ・題材及び実施時期

実用英語技能検定準 2 級リスニング問題第 3 部から 5 問を選び、その文章を用いて平成 2 1 年 5 月末、7 月中旬、9 月末及び 1 0 月末の計 4 回の測定を行った。

#### ・手順

ア リスニングを行う前に、それぞれの話の登場人物を伝える。

イ リスニングは 1 度だけ行う。

ウ リスニングの後、書き取ったメモの整理をする。

エ メモに基づいて、聞き取った情報をテープに録音する。

・評価方法

各文章で聞き取るべき情報を下記のように定め、「5.2 授業実践2」で用いた要約文の評価基準で採点する。5つの問題の合計点を評価点とする。

- ・登場人物は誰か、もしくは話題は何か
- ・登場人物は何をしたか（しているか）
- ・その理由は何か
- ・その結果どうなったか

・評価例（2005年度第1回リスニング問題第3部より）

Linda was feeling stressed about her job. Her friend said she should try swimming or tennis to relax. Linda went to a local gym and asked about their exercise programs. She had taken aerobics once before, so she decided to try a yoga class. After a few months of exercising, Linda felt much more relaxed.

口頭要約例1

*Linda has stress about job, so her friend said to her, it's ... by swimming and tennis. She went to gym.*

[ 考察 ]

Who, What などの主要な情報はほぼ含まれているが、結末に至るまでの展開の部分と結末に関する情報が含まれておらず、評価点は2とする。

口頭要約例2

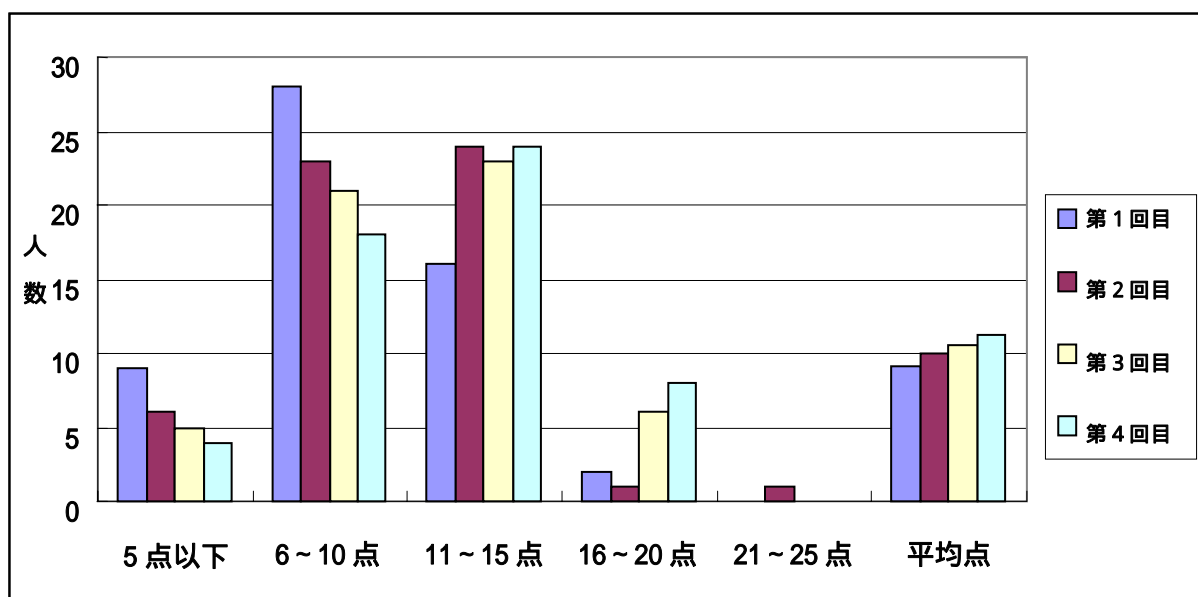
*Linda has stress about her job, so her friend said, try to swimming and exercise and she decided to try yoga. Linda is much more relax.*

[ 考察 ]

主要な情報に加え、結末を含めた情報が概ね含まれており、評価点は4とする。

・結果

「図4」実用英語技能検定問題による口頭要約テストの点数分布





## 6.2 検証

### 仮説 1

英文を聞く際、他者にその内容を伝えることを目的として、情報を整理しながらメモを取るにより、概要を聞き取る力が向上するであろう。

「図 4」口頭要約テストの点数分布における 10 点以下の度数が、回を追うごとに下降し、対照的に平均点が上昇している結果から、仮説 1 は支持されるものと考ええる。

点数分布の中間層増加の原因を、生徒の口頭要約の録音内容とそのメモの比較から推測すると、聞き取れる量は徐々に増えているものの、聞き取った情報間の因果・逆接・例示などの関係を把握できず、文章として再構築できない可能性が考えられる。このことは、情報を整理して聞く指導の重要性を示している。

### 仮説 2

メモに基づいて文章を再構築して伝える練習を積み、聞き取った情報を伝えるためのスピーキング力が向上するであろう。

「図 4」口頭要約テストの結果は、仮説 2 が支持されないことを示している。

この仮説が支持されなかった理由は、情報を伝えるスピーキング力の育成には、聞き取る力の向上だけでなく、聞き取った情報を論旨の流れに合うように再構築するための論理的な思考力の伸長が不可欠であり、その部分の指導と期間が十分ではなかったことによると考える。

本研究においては、様々な話題に関する A L T のレクチャーの聞き取りとその概要を伝える活動を行ったが、評価の観点として、聞き取るべき情報が含まれているかという「点」の観点はあったものの、伝えられた情報が全体としてまとまりのあるものかという「線」の観点が設けられていなかった。聞き取った情報を、論旨の流れに沿って組み立て直すための論理的な思考力の育成に関する検討が必要だったのである。

## 6.3 生徒の変容に関する報告（仮説 2 が支持される可能性の検証）

本研究の仮説 2 は前述のとおり支持されなかったものの、研究の初期と後期における生徒のメモや伝達内容、パフォーマンスを比較すると、そこには明らかな変容が観察される。指導法の改良によってこの仮説が検証される可能性を求め、報告する。

### 6.3.1 スピーキング力における変容

生徒が、聞き取った情報をいかに自分の言葉で再構築し、伝えようとしているかという点の変容について、生徒が再構築した文章の T-unit を指標として分析する。

#### ・評価方法

6.1 の口頭要約文中の T-unit の総数と T-unit あたりの平均語数を、初期のテストにおいて中間層以下であった以下の 4 人の生徒について調べた。

「図 5」口頭要約文中の T-unit に関する分析結果

		第 1 回目 平成 2 1 年 5 月	第 4 回目 平成 2 1 年 1 0 月	伸び幅
生徒 A	T-unit の総数	8	18	10
	T-unit 中の平均語数	4.37	5.22	0.85
生徒 B	T-unit の総数	12	19	7
	T-unit 中の平均語数	4.25	5.74	1.49

生徒 C	T-unit の総数	11	18	7
	T-unit 中の平均語数	4.63	6.39	1.76
生徒 D	T-unit の総数	12	18	6
	T-unit 中の平均語数	4.66	6.11	1.45
平均	T-unit の総数	10.75	18.25	7.5
	T-unit 中の平均語数	4.48	5.87	1.39

(注) T-unit は文が分割される最小の単位であり, 1 つの独立節とそれに付加されるあらゆる種類の従属節からなる。一般的に T-unit 内の単語が多ければ, それだけ熟達した英文と評価される。

[ 考察 ]

いずれの生徒も, 口頭要約文中の T-unit の総数と T-unit 中の平均語数が伸びている。このことは, 生徒が, 論旨の流れを見失ってしまい, 概要を直接つかむことはできなかったものの, 聞き取った情報を基に何とか自分の言葉で再構築し, 伝えようとする意欲とその文章作成力の伸びを表していると考ええる。

### 6.3.2 口頭要約力における変容

生徒 A の口頭要約文 (第 1 回目・第 1 問のみ)

*Linda stress about job. Her friend advise swimming.*

生徒 A の口頭要約 (第 4 回目・第 1 問のみ)

*Dr. Tanaka is dentist in Tokyo.  
Recently many foreign people come to him.  
But he can't speak English.  
So he learn English very well.  
And he become to like English.*

(原文) Dr. Tanaka is a dentist in Tokyo. Recently, many foreign patients have been coming to his clinic. Some of them can't speak Japanese, and Dr. Tanaka wants to communicate with them in English. As a result, he has started taking English lessons. Dr. Tanaka can't speak very well yet, but he is studying hard.

[ 考察 ]

初期においてはメモに書き取った情報量も少なく, 伝えた内容も聞き取った語句の羅列に終わっており, 文として成立していないか, 非常に短い単文のみであった。最終回のテストでは, 結末の部分に誤りがあるものの, 登場人物は誰か, 話題は何か, 登場人物は何をしたのか, その理由は何か, などの概要が等位接続詞を用いて表現できている。

生徒 D の口頭要約文 (第 1 回目・第 1 問のみ)

*Linda has stress about her job. Her friend gives her advice. For example, swimming.  
She go to gym. She decided to do yoga.*

生徒 D の口頭要約 (第 4 回目・第 1 問のみ)

*Dr. Tanaka is dentist in Tokyo. Many foreign people have been coming there.*

*He speaks Japanese. Also, he speaks English with person who come to his hospital.  
He take English lesson, and he has study hard.*

[ 考察 ]

初期においては、聞き取った情報をほぼそのままの語句で伝えている。また単文のみで接続表現を用いることができていない。最終回のテストでは、展開部文の“Many foreign patients have been coming to his clinic.”について、聞き取れなかった“clinic”という単語を副詞を使って表現したり、“hospital”という自分の知っている単語に置き換えて表現することができている。また“Dr. Tanaka wants to communicate with them in English.”という表現を、関係代名詞を使ってパラフレーズすることができている。

6.4 アンケート結果

研究2年目のレクチャーの聞き取りと概要を伝える活動について、以下のアンケートを実施した。(有効回答数 51)

「英語表現」の授業で行なった Scratch & Feedback について以下の質問に答えてください。

設問1 この活動によって、聞くだけでレクチャーのおおまかな内容がつかめるようになった。

ア そう思う イ ややそう思う ウ あまりそう思わない エ そう思わない

設問2 この活動によって、聞き取った内容を自分の言葉で伝えられるようになった。

ア そう思う イ ややそう思う ウ あまりそう思わない エ そう思わない

[ 結果 ]

	ア	イ	ウ	エ
設問1	12 名	20 名	10 名	5 名
設問2	4 名	14 名	23 名	10 名

[ 自由記述 ]

単語では言えても、文にして言えない。

伝えることが自分が理解していることの半分くらいしかできない。

聞き取れても、それを伝えるとなると文にまとめられず、とても大変でした。

大体は理解できるようになった気がするけど、一度わからなくなるとついていけない。

聞き取って理解するところまでは前よりもできるようになったけど、まとめたり、それを伝えるのができなくて詰まってしまうことが多いです。

[ 考察 ]

生徒の感想から、英語を聞き取ることができるようになってきたという実感はうかがえるものの、それを他者に伝えるために自分の言葉で表現することに負担に感じている生徒が多いことがわかる。これは「聞く」というインプット活動で自分ができることと、それを自分の言葉で伝えられることとのギャップに気付き、自分の発信能力を受信能力のレベルに近づけたいという気持ちの表れなのではないか。また、「聞く」とこととその内容について「話す」とことと関連付けた活動が、それぞれの力を伸ばすのに有効であると感じている生徒も多い。

7 考察

6.4 のアンケート結果から、生徒は、因果関係や論旨の展開を意識しながら聞き取ろうとすることが、リスニングの力を伸ばすのに有効であることを実感できたことがわかる。一方、自

由記述にあるように、情報が聞き取れたとしても、それを文に再構築することに困難を感じている生徒が多いことも事実である。聞き取った情報を他者に伝えるという練習を重ねていくにつれて、生徒の聞き取る力が向上し、自分の言葉で伝えることができるようになった。しかし、文章を再構築して伝える段階と、概要としてまとめた文章を組み立てる段階との関係をより詳しく検討し、指導に活かすことができなければ、この因果関係を証明する有効な資料を得ることは難しい。情報を整理しながら聞く力をつける指導や、聞き取った情報を概要に沿って組み立て直す指導などについて、更に工夫を重ねていかなければならない。

また、本研究の評価では、情報を伝えることに重点を置き、口頭要約文中の文法的な誤りについては事後添削という形式をとった。語句や文法の誤りは、生徒がより多くの情報を伝えようとするほど増えることが確認できたが、これらのことから、以下の3点に留意した指導を実践すべきであったと考える。

- ・ 概要としてまとめた文章を組み立てる力をつける指導
- ・ 文章を文法的な正確さの面から自己修正できる力をつける指導
- ・ 自分の伝達表現を文章構成の面から訂正する力をつける指導

以上の考察を踏まえ、今回の研究成果を活かしながら今後も指導法の改善に努め、情報の受信から発信へと発展させていく指導を充実させて、生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上を図りたい。

#### 参考文献

- 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 (1999) 開隆堂
- 村野井 仁 「第二言語習得研究から見た効果的な英語学習指導法」 (2006) 大修館書店
- Brown, H. *Principles of language learning and teaching* (1987) Prentice-Hall, Inc.